

協働事業可視化ツール

平成 26 年 3 月 31 日

特定非営利活動法人ボランタリーネイバーズ

里山と海を結ぶ 「ひみ森の番屋」 地域内エネルギー循環事業

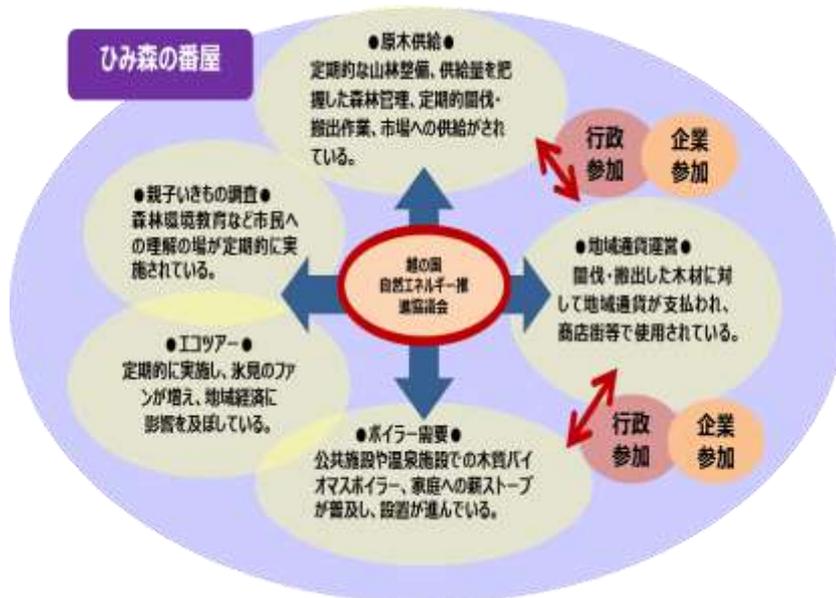
富山県氷見市 越の国自然エネルギー推進協議会

富山県の西部に位置し、富山湾に面する人口約5万人のまち、氷見。主要産業は漁業であり、「氷見寒ブリ」が有名です。富山湾の海洋資源を支えているのは、氷見の森林・里山資源です。その森林資源を活用して、地域住民の手でエネルギーの地域循環システムをつくらう、と始まったのが「ひみ森の番屋」プロジェクトです。木質バイオマスの導入や家庭への薪ストーブの普及、森林環境教育やエコツアー、地域通貨を使っての地域住民の間伐作業への参加等を促し、森林・里山保全とその資源を活用した地域経済の活性化を目指しています。

●平成25年度環境省地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業

■目指す状態

多様な主体の協働により
地域資源を活用した地域エネルギー・経済の循環の実現
地域住民の理解が深まり、氷見の森林資源の需要が生まれ、木質バイオマスエネルギーの供給がされ、地域通貨を活用した地元産業の活性化がされている。



近年の国産材の価格低下、不在村森林所有者増加、林業後継者不足等の問題を抱え、氷見の森林・里山は荒れた山へと変貌しています。また、地域産業・経済が国際競争の中で低迷し、過疎化が進行しています。

そんな中、氷見の地域資源である森林と海を結んで、豊かな森と海を取り戻したい、地域経済を活性化したいとプロジェクトがスタート。現代版「番屋」として、氷見の森、海をつなぎ、地域が豊かになる循環を生み出したいという志のある人が集まり試行錯誤をしています。

氷見の森林資源を、市内の公共施設や温泉施設に木質バイオマスボイラーが導入され、地域住民の家庭にも薪ストーブが普及し始め、氷見の森林資源が使われる資源・エネルギー循環の実現、氷見の森林の間伐・搬出作業が始まり、森林の手入れが進み始める。搬出した木材を地域通貨で買い取り、地域通貨が使われることで地元商店街や産業が活性化。そんな地域資源・エネルギー・経済循環の仕組みを実現します。

●●●「ひみ森の番屋」づくりをすすめる5部会●●●

- ▼原木供給調査部会： 森林の状況や供給量の調査や森林所有者を対象に間伐・搬出作業への参加促進を行う。
- ▼ボイラー需要先調査部会： 搬出した木材を薪にし、代替燃料として使用する木質バイオマスボイラー導入を検討・促進する。現状のエネルギー使用量とボイラー導入可能性の調査を行う。
- ▼地域通貨部会： 地域通貨を間伐・搬出した木材の対価にし、地元商店などで活用して地域経済の循環を生み出す。
- ▼親子いきもの調査部会： 親子を対象に、森林体験環境学習等を行い、氷見市民への森林への理解を促進する。
- ▼エコツアー部会： 氷見の森林資源や産業、歴史に触れる機会をつくり、環境+観光による地域活性化を目指す。

■立上げ期メンバー



■現状



■ 2013 年度の活動

月	事業内容	ステークホルダー及び事務局会議
7月	竹林整備 各部会調査活動スタート！ 第1回「ひみ森の番屋コミュニティ」シンポジウム ◎市長を含め 89 名が参加。地域住民から事業への期待の声が。	●準備会開催（6月） メンバー紹介、事業概要説明、計画及び目的の共有 ●第1回協議会開催 各部会活動内容、調査項目、調査先の検討、地域通貨の仕組み検討
8月	山林整備 親子生き物調査-夏場所-	▼第1回連絡会（名古屋） 事業進捗及び協働体制についての報告
9月	一般参加薪割体験 間伐作業・森林整備 ◎親子約 40 名参加。 関心の高さを把握できた！ ◎「市民プール木質バイオマスボイラー整備事業」への補正予算が組まれる！	▼交流会（名古屋） 他採択団体や協働の専門家などを交えて意見交換 ●第2回協議会開催 事業全体イメージの確認、各部会事業進捗報告、部会内意見交換 ※原木供給部会において作業道の問題が提起される。
10月	カーボンオフセット研修会 ひみ森の番屋地域住民説明会-間伐搬出演習- 間伐作業・森林整備	●氷見市温水プール事業会議への参加 木質チップの燃料価格や搬入量の目安、搬入方法等の意見交換 ◎集積木材の供給についての道筋がみえてきたかも。
11月	親子生き物調査-秋場所- ひみ森の番屋-初場所-体験エコツアー 間伐作業・森林整備 ◎他市町村の森林所有者による現場見学や地元ラジオ局からの番組出演の依頼が…。 ◎氷見の文化と伝統に触れて、氷見の魅力を伝えることができた「氷見ファン」続出！ ◎参加者と地域住民、活動している人の交流によって事業への関心や活動者のモチベーションが高まった！	●▼情報共有 & 運営委員ヒアリング 各部会事業進捗確認、課題の整理 ※地域通貨の導入について ※今後の実施体制及び事業戦略について ※次年度以降の資金調達について
12月		▼第2回連絡会（名古屋） ▼各部会ステークホルダーを対象にアンケート実施（11件） ◎アンケートから事業へのポジティブ提案を把握。課題や今後の展開も具体的になった！
1月		●第3回協議会（氷見） ▼MSDへの参画 事業進捗及び課題報告 ▼中間報告書及び次年度事業計画作成 ▼全国協働取組事業交流会（東京）
2月	第2回シンポジウム	
事業展開		●5部会により事業展開。各部会ではそれぞれのテーマにおける現状や地域ニーズを把握するための調査活動を実施。 ●今後は、地域ニーズに基づき事業計画を作成。森林整備、間伐・搬出作業をすすめながら、供給先の営業開拓を行う。 ●地域住民の理解促進のための、森林環境教育、間伐体験、エコツアーを継続して実施する。地域通貨の可能性についても調査活動及び検討を続ける。
関係性資本		●多様な専門性を持つ主体が多く参加し、協議会を設立。各部会の役割が明確に達成され、地域ニーズを集結することができた。行政や地元企業の参加を促し、協働展開を図る。

■ステークホルダーの声 各部会へのアンケート調査抜粋（原木供給4 ボイラー2 地域通貨6 いきもの調査2 エコツアー1 計11名）

【事業に関わって】

- ◎価値観や考え方について、市民としての視点に偏りがちだったところを様々な視点で捉えることができるようになった。
- ◎情報、技術の共有により、課題解決や実行の能力とスピードがあがった。
- ◎地域の自給力をあげること、特にエネルギー分野での自給力を上げることができれば、将来予測されるピークオイル等にも対応でき、地域経済が豊かになると感じている。
- ◎森林所有者の森林整備意欲を向上する非常に高い効果が期待される。
- ◎地域住民が、里地里山の維持に関する再認識することで、環境保全のスタートアップの成果が得られた。
- ◎地域住民の顔を見ることができ、協働していくうえで、大まかな見通しが立てられたような気がした。
- ◎木の駅により、地域に仕事（収入源）を作るという協議会本来の目的は1つ達成されつつある。
- ◎地域通貨に関するヒアリングを実施した際に、地域住民の意欲的な態度、協力的な姿勢を受けたため、ステークホルダーの理解は得られていると感じた。多くの方が積極的に参加しており、それぞれの部会における責任を個々が果たしている。まずは目指すビジョンをはっきりとイメージできるまで、夢を見ることができるようまでつきつめることが必要である。

【今後に向けて】

- ▼マーケティングが足りなかった。コアメンバーがその認識を持って、2年目はもっと戦略を練って取り組む。
- ▼まだまだ巻き込みたいステークホルダーを巻き込み切れていない。
- ▼人を巻き込むためのファシリテーションやコーディネーション、事業のストーリー性を高めることが大切である。

いきものみつけファーム

地域循環をつくる 体験農園

長野県松本市 いきものみつけファーム in 松本推進協議会

食・農・環境をテーマに、子どもたちが体験を通して学ぶ場「いきものみつけファーム」。ここで行うのは、農業体験やいきもの観察だけではありません。

いきものみつけファーム in 松本は、多様な組織が関わる事で、生産された農作物をスーパーで販売するなど、流通・販売・消費までの循環を実体験できる舞台になっています。豊かな自然・環境への負荷が少ない社会経済（グリーンエコノミー）の視点から持続可能な社会の発展を目指す取り組みです。

●平成 25 年度環境省地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業

アルプスの麓の長野県中信地域。豊かな自然に恵まれている一方、化学肥料に頼る農業が一般的な時代に、土から見直す農法が注目されています。そのような背景を受けて、「いきものみつけファーム in 松本」は、無洗米をつくる過程でできる有機質肥料「米の精」を使った循環型農業を取り入れ、いきものが賑わう農地づくりをしています。

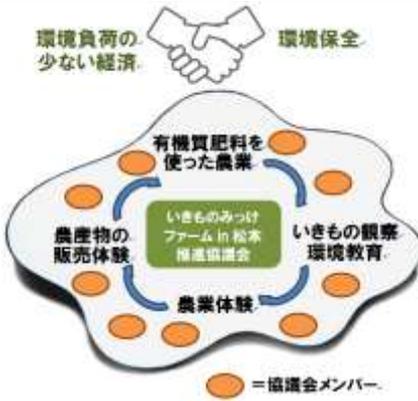
そして、これまで「点」にとどまっていた、「環境保全型農業」「子どもたちの農業体験」「環境教育」「消費者教育」等のテーマ活動をつなげ、環境への意識を持った消費行動や、地産地消の地域づくりを育んでいます。また、産官学民連携の体制により、各々の得意な領域や協働の強みを発揮した事業を展開しています。

8,300 m²のフィールドで始まった、地域循環と地域協働を育むユニークな体験農園。多角的な活動を支える資金基盤を確保して、中山間地での新時代の農業のモデルや魅力ある地域づくりを、さらに地域で展開しています。



■スタート時の状態

環境省生物多様性センター主宰の「いきものみつけ」の全国初のフィールドとして誕生(2011年11月)



■目指す状態

協議会メンバーの専門性を活かし、地域を巻き込んでいく多様な事業が展開され、農業・地域のあり方を変えていく



■生じている変化のココに注目！

事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・田んぼに加えてとうもろこし畑も。農業体験・いきもの観察の幅が広がってきました。 ・ファームを素材にした教材を制作し、教育現場との連携・展開も進めていきます。 ・雨天でもできるプログラムや、米の精を使った栽培キットを開発中です。
関係性資本	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の参加プログラムを多様に考案。相手ニーズのマッチングに努めて進めていきます。 ・フィールド・教材&担い手づくりと活動が多様化する中、協働体の強みが発揮できる事を目指します。 ・全国で広がりつつあるいきものみつけ。将来に向けて地域交流を行う仕組みをつくりました。

■2013 年度の活動

月	事業内容	会議／体制づくり
5月	田植え体験	
7月	とうもろこし収穫体験&水生生物調査	●第1回協議会 今年度の事業・組織強化の目標の確認 地元企業等との関係強化の検討
8月	◎お米屋さん、大学の先生、NPO、企業の人が あみだしたいきものみつけ+ファーム！	▼第1回 EPO 連絡会 地域の理解促進等の戦略の検討
9月	精米工場見学（稲刈り体験が雨天により変更） &秋の水生生物調査	●第2回協議会 協議会の将来像の検討と確認
10月	水生生物教材づくり（～2月） ◎活動を教材に！	●イベント反省会 雨天時も可能なプログラム検討
11月	収穫したお米の流通体験 親を対象としたミニ講座&意見交換会 松本大学の学生による栄養講座 ◎大学生も参加	▼第1回 EPO 交流会 地域の理解促進等の戦略の検討
12月	いきものみつけの持つ経済社会の循環を学習する教材づくり（～2月） ◎教材づくりスタート！	●第3回協議会 環境教育の担い手・地元協力者拡大・成果と可能性を検証する全国フォーラムの企画。 協議会の将来像及び、企業参加プログラムの検討
1月	理解・支援を募るPRツールの作成&それを活用した賛助企業の呼びかけ ◎営業スタート！	▼第2回 EPO 連絡会 協働体制強化等の検討 ●第4回協議会
2月	いきものみつけファーム 人づくりフォーラム 環境教育指導者養成講座（11月～2月） ◎環境教育の担い手が広がる！	全国フォーラムの準備・各役割検討。 協議会の将来像の確認。教材の活用法の検討。 フォーラムへの賛助・参加呼びかけを通じた協力者拡大活動

■事業に関わる人の声・今後への想い

協議会での議論・ステークホルダーアンケートより

- 異なる業種同士が集まることで、新しい発想が生まれ、考え方が展開されていくのを実感しています。
- 多様な人や組織が関わることで、地域密着型になり、本当に地域全体が変わりそうな気がしてきました。
- いきものみつけは、子どもたちの未来を支える総合的な活動基盤となり得る。森林や河川の保全、エネルギーも視野に入れた取組みを起こしたい。国の機関（農水、国交、文科、環境）との連携も考えたい。
- いきものみつけファームで生産するものが付加価値を生み、利益として還元されることが永続的に続くような仕組みができるとうい。 →※コンテストを行う等、ブランド化を図るアイデアも出ています。
- 消費行動を変えるには、親世代の意識の変化が不可欠。循環型農法で自宅栽培できるキットを作り、日常的に体験しながら「持続的な生活を目指そう」と感じられるようなアプローチも試みたい。
- 農業や環境等の現時点での問題が見えている中、メッセージ性が強い活動。農業自体が環境にとって非常に大切である事の理解が深まり、農業従事を希望する方が増えるような展開になるとよい。



いきものみつけファーム in 松本推進協議会
〒399-0011 長野県松本市寿北 9-7-17
TEL:0263-50-5822
ikimonomikke@nakajimaya.co.jp
<http://www.ikimonomikke-farm.com/>

田植え体験からいきもの観察、収穫や販売体験まで。いきものみつけファームだから、その循環が体験できます！

みんなの 環境学習講座

長野県飯田市 NPO 法人南信州おひさま進歩

飯田市は市民主体の公民館活動が活発なまちです。平成25年に施行された市民の再生可能エネルギー事業を支援する条例を受けて、市民の環境意識を高め、持続可能な地域づくりのための人材育成にNPOが乗り出しました。各地区の公民館と協働し、地区ごとの実情に合わせた環境学習講座を企画・実施しています。

●平成25年度環境省地域活性化を担う環境保全活動の協働取組推進事業



『みんなの環境学習講座が目指していること』

飯田市の「再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例」では、市民による共同発電所など、地域資源から得られる利益を地域づくりのために使う権利「地域環境権」を保障しています。

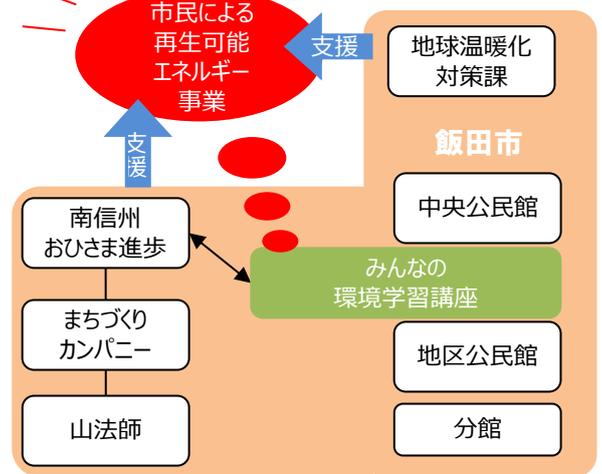
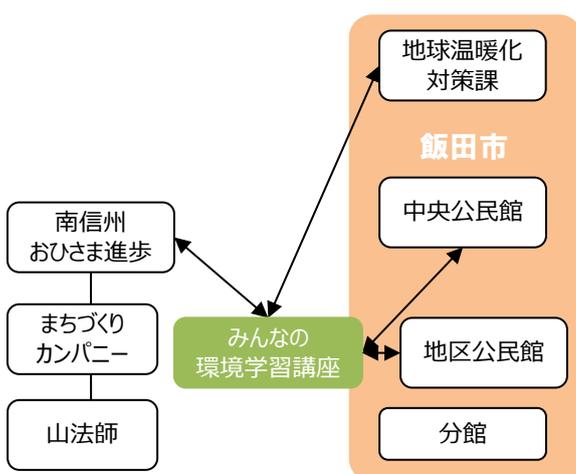
また、条例に則り市民が再生可能エネルギー事業を立ち上げる際のプロセスが規定され、金融機関等から投融資を受ける際の信用力の付与や、市の基金から初期調査費用を無料貸付するなどの支援を受けられることも定めている画期的な内容となっています。

一方で、市民への条例周知はこれからであり、まずは環境に対する意識・関心を高めるための啓発活動、環境学習を行う本事業がスタートしました。

飯田市は住民主体の公民館活動をとしたまちづくりが活発な地域ですが、専門性を持ったNPOが企画の段階から連携して講座を実施するのは今回が初めてです。ゆくゆくは市民のなかから再生可能エネルギー事業が立ち上がり、持続可能な地域づくりにつながることを期待されます。

■スタート時の状態

■目指す状態



事業展開	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOと公民館が協働で環境学習講座を実施する ・住民主体の公民館の特性を活かし、地区ごとの実情に応じた多様なプログラムができる
関係性資本	<ul style="list-style-type: none"> ・NPOと公民館の協働関係が育ち、お互いの強みを生かすようになる。

■2013 年度の活動

月	事業内容	ステークホルダー会議
7月		●第1回検討会議 事業説明及び企画検討
8月		▼第1回連絡会（EPO 中部） 事業進捗及び協働体制についての報告
9月	家計にやさしい省エネ講座（上村地区） 地域環境権講座（鼎地区） ◎公民館主事と本事業コンセプトやゴールについて共有ができてきた！	●第2回検討会議 ・各地区の報告と2月シンポジウムの企画検討 ▼交流会（EPO 中部） 他採択団体や協働の専門家などを交えて意見交換
10月	かみむら総合文化祭省エネクイズ出展（上村地区） 講演会「ドイツに学ぶ市民主体の地域づくり」 家庭でできる省エネ講座（川路地区） ◎住民の希望や関心にあう講座企画が出来始めてきた。	
11月	羽場公民館文化祭 環境展示及びソーラーオルゴールワークショップ（羽場地区） 丸山公民館文化祭 環境展示及びソーラーオルゴールワークショップ（丸山地区） ◎ソーラーパネルを活用した工作教室が人気になる！	●公民館大会担当者会（2回） ▼公民館主事対象グループインタビュー ▼まちづくりカンパニー・山法師ヒアリング
12月	ひさかた和紙講座 ランプシェードづくりワークショップ（下久堅地区） ◎地域特産品を活用した環境クラフトに挑戦した！	●第2回連絡会（EPO 中部） ・他採択団体や協働の専門家を交えて協働の課題についての意見交換
1月		▼MSD への参画 事業進捗及び課題報告
2月	公民館祭り ◎ソーラーパネルを活用した工作教室が人気になる！	▼全国協働取組事業交流会（東京）

■ステークホルダーの声

- 飯田市は「環境文化都市」を掲げていますが、必ずしも市民に根付いていないところがあります。今回の条例をいい機会として、市民の意識をたかめていきたい。そのためには継続してやっていくことが大事です。市民と行政が最も近い公民館を啓発の場としていくことは重要だと考えています。
- これまで公民館と NPO が連携したことがなかったので、環境問題やエネルギーについて専門的知識をもっている NPO と事業ができるということに、いままでにない飯田の公民館の可能性を感じています。
- 条例ができたから勉強しようというのではなく、もっと生活レベルでの問題意識のところから学習をはじめていくことが有効だと思います。「家計にやさしい省エネ講座」などは、生活に直接かかわることなので、参加した人は非常に満足されていました。もう一度開催してほしいという声もあがっています。
- 公民館は文化・スポーツ活動が中心になっていますが、環境問題などの地域の課題に取り組む活動がひろがっていくといいですね。
- 今回の講座を通して、市民が自分の地域を見直すきっかけにもなっています。